

報告事項 シ

鳥取環境大学と鳥取県教育委員会との意見交換会の概要について

鳥取環境大学と鳥取県教育委員会との意見交換会を開催しましたので、その概要について報告します。

平成26年10月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

- 1 日 時 平成26年9月8日(月) 16時00分～17時30分
- 2 場 所 白兔会館「飛翔東の間」
- 3 出席者 環境大学：学長、副理事長、副学長、環境学部長、経営学部長 他 計19名  
県教育委員会：教育長、教育次長、次長、関係課長 他 計12名
- 4 内 容



## < 議 事 >

### (1) 県内からの志願者(合格者)の増加に向けての施策について(鳥取環境大学提案)

- 平成24年度に公立化され、全体の志願者数は増加をしているが、県内からの志願者は減少している。全体志願者の10%程度。合格者は、さらに少ない。
- 平成25年度以降、推薦入試で各学部15名の地域枠を設けたが、これも必ずしも充分満たしている状況ではない。
- 上記状況については、鳥取環境大学が公立化され、全国区の大学になったとも考えられる。それで志願者数が増加したが、県内高等学校では、公立化2年目ということもあり、まだ受験の傾向がつかめていなかったとも考えられる。
- 学生の県外流出は、県内の大学が抱える共通の課題だと思う。あわせて、人口減少も大きな課題。せっかく県外から多くの学生に来ていただいているので、鳥取で学ぶこと、働くことの魅力を知ってもらい、卒業後もなんとか鳥取県に留まってもらう対策も必要。もちろん、県外の大学に進学した学生が、卒業後鳥取へ戻ってきてくれることも大切。入学段階で県内の大学に進学してもらえれば、卒業後、鳥取県に貢献してくれる確率もさらに高いが。
- 学生の県外流出は、ある意味当たり前。環境大学は学部が二つ、鳥取大学も多くの学部があるわけではない。環境大学に多くの優秀な学生に来てもらおうと思ったら、高校の進路指導云々だけでなく、卒業後も含め、大学の魅力も大切。環境問題は、今、全国的、世界的に重要な問題。そういうところを、もっと積極的な形で発信できたら。
- 英語村、ICT等、環境大学は進んでいるところも多い。そういうところで、小学生、中学生を、日常的に大学に巻き込むことができると良いのでは。小中学生が大学に出かけるとか、大学生と何かをするというのが、違和感なく当たり前に行えるように取り組む等。そうすることで、何年か先には、その子ども達が環境大学で学びたいと思うかもしれない。

### (2) 教員志願者の確保について(鳥取県教委提案)

- 鳥取県の取組について説明。
- 環境大学は理科の教員免許となるが、免許取得、採用試験等について、積極的に学生に働きかけを行ってほしい。
- 選考試験の説明会は、4年生だけでなく、3年生や他の学年にも受けていただきたい。鳥取の教育の良さについていろいろPRしたいと考えている。

### (3) 教育実習への協力依頼について（鳥取環境大学提案）

- 教育実習について、文部科学省は、平成 18 年の中央教育審議会で、できるだけ母校実習は避けること。実習は母校に任せるのではなく、大学教員と実習校の教員が協力して行うことを推奨している。
- 環境大学も、東部地域を中心に、市町教育委員会、校長会、各学校へ、教育実習受入れのお願いに訪問するが、まだまだ母校実習の考え方が強く、なかなか実習校を確保できない。
- 西部地区へ選択肢を広げる方法もあるが、教育実習は原則公共交通機関を使い通勤することとしており、遠方、また、東部地区でも中山間地にある学校等、通にくい場所もある。
- 他県から来ている学生が、県内の学校で実習をすることで、そのまま県内に残る選択をする可能性もある。
- 校長会で申し入れをし、「皆で育てていこう」という雰囲気を作ることも大切。今、現場では理科の教員が不足しており、優秀な教員を求めている。だが、実習の受入れについて、最終的には学校の判断となる。

### (4) グローバル化に対する取り組みについて（鳥取県教委提案）

- 鳥取県の施策を説明。
- 英語教育分野については、環境大学に御協力いただき、非常に良い機会を与えていただいている。

### (5) 智頭農林高校演習林の活用（鳥取県教委提案）

- 智頭農林高校の演習林では、森林に関する勉強の他、自然観察にもかなりのウエイトを置いている。野鳥のバウンディングによる観察等、レベルの高いものも実施しており、他にも湖山池での早朝野鳥観察等、積極的に取り組み、それを小学生に教えるというようなこともしている。
- こうした活動の中に、大学の先生方に入っていただくと、生徒の知見もさらに深まる。それ以外にも、森林の研究の方向性等を示していただけるのでは、と思う。
- 環境大学では、「まちなかキャンパス」を市内に置き、そこで活動する一つの材料として「地域連携のプラットフォーム」を作り、1市5町（東部地区市町+新温泉町）、経済団体等で構成している。演習林の活用での大学とのコラボレーションの提案について、大学に持ち帰り検討し、もし調整できると、少し進めていく、という方法もある。「智頭農林高校はひとつの財産」と智頭町長も言っておられ、もしかしたら智頭町を巻き込んだ形の取組が可能かもしれない。
- 今後改めて相談していく。

## <報告・依頼事項>

### (1) 鳥取環境大学

#### ①教育実習への協力依頼について

教育ボランティアに、積極的に学生を参加させている。教育実習の受入れについても、ボランティア等で学生を知っていただいた上で、その学生を教育実習で受け入れていただく、ということも考えているので、協力をお願いしたい。

### (2) 鳥取県教委

#### ①本学の学力向上について

県の取り組みを説明。

#### ②土曜授業等の支援について

今年度より、県内各市町村で、土曜授業、教育活動を進めている。今後取り組みが増えていくことが考えられる。こうした土曜日の取り組みについて、学校から、学生の教育ボランティアの派遣をお願いすることはあるかもしれないので、そのときは協力をお願いする。

#### ③鳥取環境大学と県立高等学校における連携の状況について

連携状況を説明。

#### ④学生教育ボランティアについて

引き続きの協力を依頼。